

(1) 実施機関名：

兵庫県立大学

(2) 研究課題(または観測項目)名：

地震・火山観測データを活用した減災・復興モデルの構築とリスクコミュニケーションに資する事例収集

(3) 関連の深い建議の項目：

4 地震・火山噴火に対する防災リテラシー向上のための研究

(2) 地震・火山噴火災害に関する社会の共通理解醸成のための研究

(4) その他関連する建議の項目：

3 地震・火山噴火の災害誘因予測のための研究

(3) 地震・火山噴火の災害誘因予測を災害情報につなげる研究

地震

火山

5 研究を推進するための体制の整備

(2) 総合的研究

ア. 南海トラフ沿いの巨大地震

オ. 高リスク小規模火山噴火

(6) 社会との共通理解の醸成と災害教育

(5) 総合的研究との関連：

南海トラフ沿いの巨大地震

高リスク小規模火山噴火

(6) 平成 30 年度までの関連する研究成果(または観測実績)の概要：

室崎益輝・兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科編「災害に立ち向かう人づくり 減災社会構築と被災地復興の礎」, ミネルヴァ書房, 2018

Sakamoto M., and others: Disaster Governance in Disaster Management Planning-Analysis of the Evacuation Planning Process for Kuchinoerabujima Volcano Eruption, Journal of Natural Disaster Science, Vol.37, No.2, pp.105-117, 2016

阪本真由美, 田所敬一, 高木朗充, 臼田悠一郎, 宇井忠英; 御嶽山に関する住民意識調査から考察する災害情報の伝達, 地域安全学会論文集, No.28, pp.139-145, 2016

阪本真由美: 御嶽山噴火をめぐるリスク・コミュニケーション, 自然災害科学, 第 34 巻特別号, pp.23-34, 2015

(7) 本課題の5か年の到達目標 :

本研究では、過去に発生した災害において、地震・火山観測情報がどのように災害対応・復興に活用されてきたのか、災害対応における意思決定と災害を契機とした被災地の移転再建や生活再建における観測情報の利活用を事例検証を通して明らかにすることを目的とする。また、その社会的知見(災害の教訓)と地震・火山に関する科学的知見(メカニズム)を、市民の防災リテラシー向上と、減災・復興施策(災害対応・事前移住・事前復興計画技術など)に資する災害事例の収集を行う。

(8) 本課題の5か年計画の概要 :

過去の災害事例において、地震・火山観測情報が災害対応・復旧・復興にどのように活用されたのかを、文献調査、現地調査、通時調査を通して検証する。研究実施過程においては、セミナーなどを通して研究成果を社会的に発信するとともに、減災・復興政策に活かすという目的のもとリテラシー向上を図るための人材育成に取り組む。具体的な、検討事項は以下のとおり。

(1) 地震・噴火発生時の災害対応に活用される観測情報の体系化

(2) 被災したエリアにおける、生活環境の移転・土地利用規制と生活再建の検討

(3) 地震・噴火による社会的被害の解明と、その社会的知見(災害の教訓)と地震や火山に関する科学的知見(メカニズム)を生かした、事前復興計画の策定と市民の防災リテラシー向上。

2019年度は、過去に発生した災害(南海地震、阪神・淡路大震災、東日本大震災、熊本地震、伊豆大島、御嶽山噴火、口永良部島噴火など)の災害対応・復旧復興過程において、観測情報がどのように活用されたのかを事例検証を通し明らかにする。

2020年度、21年度は、観測情報に基づく、警戒区域や危険区域の指定などの土地利用規制が、そこに住む住民の暮らしや生活再建にどのような影響を及ぼしたのか、地域住民への調査に基づき検証する。災害復興過程において、警戒区域や危険区域の指定により被災エリアへの立ち入りや再建が規制されたエリア(東日本大震災、有珠山・雲仙岳・伊豆大島・口永良部島など)に着もくし事例検証を行う。2022年度は、被災経験やその後の観測情報提供の仕組みの見直し、被災地域住民の防災意識や地域の防災計画にどのような影響を及ぼしたのか、阪神・淡路大震災、東日本大震災、熊本地震、御嶽山、口永良部島などの被災地における事例調査から検討する。

2023年度は、これまでの地震や火山噴火による被害状況とその要因の相関関係を考察し、その知見(災害の教訓)と地震や火山に関する科学的知見(メカニズム)を、事前復興や市民の防災リテラシー向上に活用するための方策を検討・実践する。

(9) 実施機関の参加者氏名または部署等名 :

兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 室崎益輝、森永速男、加藤恵正、富永良喜、紅谷昇平、青田良介、浦川豪、阪本真由美

他機関との共同研究の有無 : 有

兵庫県立大学大学院シミュレーション学研究科 永野康行

(10) 公開時にホームページに掲載する問い合わせ先

部署等名 : 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科

電話 : 078-891-7376

e-mail :

URL : <https://drg-u-hyogo.jp/>

(11) この研究課題(または観測項目)の連絡担当者

氏名 : 阪本真由美

所属 : 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科